

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動等

ア 各教科

- (ア) 各教科年間指導計画に基づく授業の確実な実施と、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を推進することで、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通してよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。
- (イ) 習熟度別指導ガイドラインに基づいた少人数指導による指導の充実や、学習予定表を活用した自主学習の推進、補習教室の充実により学習内容の定着を図る。
- (ウ) ICTや学校図書館を効果的に活用して、言語能力・情報活用能力の向上を図る。地域や保護者の図書ボランティアを活用して読書環境の整備に努め、活性化させる。
- (エ) 児童の発達段階を踏まえ、学習支援員の効果的な活用やノート指導の全校での系統的な取組により、個に応じた指導の充実を図り、確実な学力の向上につなげる。
- (オ) 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせる食育を推進し、身体能力を高める運動と関連させた健康教育の充実を図り、児童の健康の保持増進と体力向上を図る。
- (カ) 年間指導計画に基づきALT、ICT機器を活用し、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

イ 道徳科

- (ア) 道徳教育推進教師を中心に、児童が自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方を考えることができる道徳の授業改善に努め、自己肯定感・自己有用感を育む。
- (イ) 道徳授業地区公開講座では、道徳的価値についての話し合いを深める場を設定し、児童が互いのよさや可能性を發揮できるよりよい集団生活の構築や社会への参画意欲を高める教育を推進する。

ウ 外国語活動

外国語教育推進リーダーやALT、ICT機器を効果的に活用し、児童の発達段階に応じた言語活動を通して積極的にコミュニケーションを図る資質・能力を育てる。

エ 総合的な学習の時間

- (ア) 地域の特性や児童の実態に応じて、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な活動を軸とした指導計画を作成し、体験活動や人との関わりを重視した学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の向上を図る。
- (イ) 指導計画のねらいを達成するために、児童の実態に応じた地域人材等を効果的に活用する。

オ 特別活動

- (ア) 学級満足度調査結果の分析を踏まえ、学級活動や異年齢集団活動等、児童が互いに協力しながら目的を達成する喜びを味わわせる活動を通して、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度、自己を生かす能力を養う。
- (イ) 感動と成長のストーリーとしての学校行事等を充実させ、集団への所属感や連帯感を深め、協力してよりよい学校生活を築こうとする企画力・実践力を養う。

(2) 特色ある教育活動

- ア 教育支援のネットワークの構築と発信による関係諸機関との連携と一人一人の教育ニーズに応じた合理的配慮と基礎的環境整備に努め、個に応じた教育を推進し、特別支援教育の充実を図る。
- イ プログラミング教育についての教員の理解を深め、各教科等の特質に応じて、プログラミングを体験させ、プログラミング的思考を育成するための学習活動を推進する。
- ウ オリピック・パラリンピック教育を推進し、認め合い、助け合える共生社会の実現を目指す。
- エ 防災、防犯・交通安全、地域人材活用の3本の柱で地域と連携した教育を推進する。

(3) 生活指導・進路指導

ア 生活指導

- (ア) 全教職員の一貫した生活指導により、学校生活における基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、生命を尊重し、善悪の判断や社会規範を守る態度を育てる。
- (イ) いじめ対策委員会を中心に学校全体で情報を共有し、学校いじめ防止基本方針に基づいて、いじめの未然防止と早期の発見、解決に向けた取組を行う。また、不登校傾向にある児童に対しては、適応指導教室等関係機関と連携して児童の自立に向け、組織的な支援を行う。
- (ウ) 生活指導全体会等の研修を通して児童理解を深めるとともに、全教職員の教育相談力を高める。
- (エ) 「防災ノート」を活用し、地域と連携した自助・共助の力を身に付ける教育、不審者対応訓練、セーフティ教室、交通安全教育等安全教育を推進し、児童の危険予測・危機回避能力を高める。
- (オ) 薬物乱用防止教室や都教育委員会作成のDVD等の教材を活用したSOSの出し方に関する教育を充実させ、家庭・地域との連携を深めるとともに、児童の安全に対する意識を高める。

イ 進路指導

- (ア) 教育活動全体を通して自己の特性に気付き自己実現に向かう態度を育成することで、夢や希望をもって主体的に生きる力を育てる。特別な支援が必要な児童に対し校内委員会を計画的に開催し、個別の教育支援及び指導計画を作成し、外部機関と連携してきめ細やかな指導・支援を行う。
- (イ) キャリア教育全体計画に基づき、育活動全体において人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を育成する。
- (ウ) 瑞雲中ブロックの小中一貫教育研究成果である取組の実践を通して、9年間の系統的な指導を行うことで、円滑な中学校への接続を図る。